

イツ」等の言葉を全て削除するように求めたことによる。国内の宗教的保守派（プロライフ派）を基盤とするブッシュ政権は、人口分野に関しては、1994年のカイロ会議において世界で共有された「リプロダクティブヘルス／ライツ」等のカイロ行動計画の考え方に強く反対しており、この会議がブッシュ政権の主張を通すための戦場となった。

12月になって開催された本会議では、準備会で合意に達しなかった行動計画前文と行動計画案が引き続き本会議と平行して作業部会で審議された。米国の主張は変わらず、米国を除く各国代表団は、カイロ行動計画の延長線上でまとめられた事務局案を一致して支持するという対立図式が会議最終日前日まで続いたが、とくに「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」と「思春期のリプロダクティブ・ヘルス」の二つの行動計画の部分に関しては米国政府の主張により採決によって文書が決められることになった。そして、会議最終日、全会一致を慣例とするこれまでの会議とは異なり、域内行動計画前文と行動計画の一部が採決によって米国案が否決され、最終的に合意文書が承認された。

（高橋重郷記）

JICA「ニカラグァ国グラナダ地域保健強化プロジェクト」

8月4日から10月8日まで短期専門家としてJICAのニカラグァ国グラナダ地域保健強化プロジェクト（通称PROGRA）に参加し、グラナダ県の地域保健（SILAIS）に対して技術協力活動を実施してきた。PROGRAは、グラナダ県住民の健康状態の改善に資するべく、住民とりわけ5歳未満の子供と妊娠可能期の女性がより質の高いサービスを享受・利用できることをプロジェクト目標として、2000年12月より4年間の予定で実施されている。現在、カウンターパートであるSILAISの適切な医療機関への紹介制度の改善・強化、母子保健、リプロダクティブヘルス、環境衛生などを中心とした活動を推進してきている。

今回、今後のSILAISの活動に役立てるため、青少年のリプロダクティブヘルス及びHIV/エイズ関連の問題について学校をベースに調査を実施することになった。青少年に対する保健活動の強化を通じて、十代の妊娠の減少、性病やHIV感染の予防が期待できる。十代の妊娠を減少させることは、乳幼児と妊産婦の死亡率を低下させることにもつながる。

調査の結果、初体験の年齢は男子生徒では、10歳以下だったという回答が若干名あり、男女とも13歳くらいから増加している。コンドームの使用率は高くなく、妊娠、性病のリスクは常に付きまわっているといえる。調査直後に実施した「お話し会（チャルラ）」では、自分の性行動を振り返った直後でもあり、生徒はみな様々な疑問をぶつけてきた。このときの知識は彼らの中に効果的に吸収されたに違いない。

教育省担当者、校長、生徒、保健所担当者らを招いて行った結果報告会では、白熱した議論が起きた。このような構成での会合そのものがめったにない貴重な機会だったようだ。13歳くらいで妊娠する子がいることや、性行動が活発な生徒がいることはみなすでに気づいていたが、性行動やそれに伴うリスクが実際どの程度かを数値としてあらためて目のあたりにし、誰も無視できない問題となった。

（小松隆一記）

韓国人口学会主催「東アジアの高齢化：課題と対応」に関する国際会議

2002年11月30日（土）、韓国の延世大学（ソウル市）において韓国人口学会主催の「東アジアの高